

特集1 シンポジウム

コロニアリズムが奪う心身の健康：decolonizing global health

(2025年1月17日開催)

権 香 淑

はじめに

本シンポジウムは、グローバル・コンサーン研究所（IGC）の設立理念（2010年）に則って企画された。その理念および目的とは、すなわち、人間の尊厳と連帯を脅かす諸問題をグローバルな視点から研究し、その成果をもって社会に意識化の場を提供すること、さらには実践を通じて変革のための人材を養成することである。その前身は、1981年4月に設立された社会正義研究所で、アジア・アフリカの難民問題を皮切りに、不条理かつ困難な状況に置かれた当事者の主体性や尊厳にむきあい、社会変革の道筋を模索してきた。IGCへと改称した後も、新自由主義経済にもとづく貧困や暴力を直視するなか、対抗の可能性を探る数々の研究・活動を行ってきた経緯がある。

周知の通り、本シンポジウムのタイトル冒頭に付された「コロニアリズム」とは「植民地主義」のカタカナ英語であるが、この古くて新しい問題状況は、第二次世界大戦後、国連の枠組みにおいて1960年の「植民地独立付与宣言」、2001年の「反人種主義・差別撤廃世界会議」で採択されたいわゆる「ダーバン宣言」が示され、実践的な取組みがなされてきたものの、グローバル化が加速する現在において、まったくもって根絶されてはいない。それどころか、問題の深化による戦争、紛争、貧困、環境破壊、大気汚染などが蔓延し、社会における差別、偏見、そして分断といった、むき出しで骨絡みの複合的な暴力が、日常と背中合わせになっている。もはや二分法では語れない問題群と向き合いながら、現代社会に暮らす私たちは、どのように対応、対処、そして対抗していけば良いのだろうか。

以下、その答えを探るために企画された本シンポジウム案内のリード文である。

たとえ植民地支配が終わっても、いったん奪われた文化や故郷、破壊されたアイデンティティや家族関係などが簡単に回復されることはない。故郷喪失者として、安心、自明性、居場所なく生きることを余儀なくされ、構造的暴力にさらされる。過覚醒不眠、身体表現性障害、適応障害、アルコールや薬物等への依存、家族の機能不全、閉塞した怒りや過剰防衛から生じる暴力、高い刑務所収監率や（特に若年層の）自死率の高さなど、世代間伝達トラウマ（intergenerational trauma）によるものと思われる現象が後を絶たない。コロニアリズムとは「歴史的な過去のできごと」とみなされがちだが、世代を超えて今なお、被植民者たちの心身の健康は「静かに」深く奪われ続ける。過去形になることがないコロニアリズムの現実を再考し、そこから解放されて健康を回復するために、いかに社会構造や政治状況を変革していくのか、ともに考えてみたい。

本シンポジウムは、上記のような問題意識のもと、コロニアリズム＝植民地主義による可視的／不可視的な暴力や抑圧といった、構造的な要因による人々の心の痛み、傷、トラウマの連鎖を考えるにふさわしい専門家の方々をお招きした。当日は、鄭暎恵氏、Michael Doyle 氏、蟻塚亮二氏、石原真衣氏の順に、問題提起、研究調査および臨床経験を踏まえた二つの講演と討論、ラウンドテーブルでの登壇者間の議論、そしてフロアーからの質疑に対する応答が行われた。本特集は、その2時間に亘るシンポジウムの記録である¹。当日の参加者は345名（対面85、オンライン260）を数え、大変盛況であった。参加が叶わなかった方からも録画配信に関する問い合わせと要望が相次いだことを受け、本研究所のホームページにて動画を公開するにいたっている²。より多くの方々と議論を共有する一助となり、「継続する植民地主義」と私たちの日常における身体や健康の問題が、グローバルな観点から捉え直されるきっかけとなることを願ってやまない。

なお、オーストラリアの先住民族を指す言葉として日本では「アボリジニ」という言葉が多用されているが、この言葉には差別的な意味合いが含まれており、近年、オーストラリアでは使用されていないことが指摘されている³。本特集では、この指摘を踏まえ、Aboriginal の訳語として「アボリジナル」もしくは「アボリジナルの人々」という用語を充てていることを付言しておく。

権 香 淑 (Kwon Hyangsuk)

(グローバル・コンサーン研究所、上智大学総合グローバル学部)

¹ 本特集は、登壇者にそれぞれシンポジウム終了後にまとめて頂いたが、Michael Doyle 氏の原稿については、ご本人の承諾を得て、事前にお送り頂いた音声パワーポイントファイルの英語トランスクリプトを掲載している。

² 島田陽磨氏（日本電波ニュース社）が当日の撮影と編集をしてくださった。ここに記して感謝申し上げます。

³ 以下、オーストラリア辞典の「Aborigines, Aboriginals」項目の記述（一部）である。「オーストラリアの先住民の総称。1970年代よりトレス海峡の島民が独自のアイデンティティを主張するようになってからは、トレス海峡島民を除くオーストラリアの先住民を指す。日本語ではアボリジニと表記されることが多いが、この訳語には問題がある。というのは、この訳語のもとになった単数形の Aborigine という語は、差別的であるという理由から、オーストラリアでは公的な場で用いられなくなっているからである。現在、先住民を総称して表現する場合は、Aboriginal People や Aborigines が用いられ、個々の先住民は Aboriginal を利用して、Aboriginal man や Aboriginal woman と表記するのが普通である。おそらく、日本の訳語としては、「アボリジナル」や「アボリジナルの人々」を用いるのが、現在のところ無難なように思われる。

https://www.let.osaka-u.ac.jp/seiyousi/bun45dict/dict-html/00003_AboriginesAboriginals.html (2025年1月30日最終閲覧)